

アルゼンチンと長田小の交流 「アルゼンチンの日の集い」

**80年以上続く
素晴らしい交流**

10月28日、長田小学校において、アルゼンチン大使館よりアラン・ペロー大使およびフェリペ・ガルデラ公使夫妻を招き、第28回となる「アルゼンチンの日の集い」が開催されました。

アルゼンチンと長田小の交流のきっかけは江戸時代末期のペリール航の際に黒船に乗船していたアルゼンチンの乗組員と当時会談の記録を取った関宿藩士の野本作次郎さんとの交流が縁で、それから約80年後、孫の代でアルゼンチン大使のモンテネグロさんと野本作兵衛さんとの交流が始まり、それ以降、アルゼンチン大使館と長田小学校の交流は今年で82年を迎えます。

今年は、10月に初の試みとしてアルゼンチンへ派遣された児童6名による現地での活動報告発表やスペイン語での歌の披露、大正琴の演奏などが行われました。

また、交流集会終了後、アラン・ペロー大使は4年生の児童たちと一緒に給食を食べ、午後は「長田小フェスティバル（文化祭）」を見学しました。

アラン・ペロー大使は今年4月に赴任され、初めての参加でしたが、終始笑顔で、子どもたちとの交流を楽しんでいました。

役場にて 歓迎式を開催

長田小での「アルゼンチンの日の集い」終了後、今年はアラン・ペロー大使を役場に招き、町として大使歓迎式典を開催しました。これは、長田小とアルゼンチン大使館との長年にわたる素晴らしい交流を長田小だけでなく、町全体の取り組みとして更に推進するために行われたものです。歓迎式では、大使一行に町の文化に触れていただくため、日本一に輝いた、さし茶の手揉み茶が振舞われ、境町出身の版画家富張司さんの作品や野菜等の特産物が贈られました。

木版画を贈る橋本町長



アラン・ペロー大使を迎える役場職員



歓迎式には多くの来賓が出席

2020年



境町は東京オリンピック・パラリンピックの
ホストタウンに登録されています



町は、かねてから交流のあるアルゼンチンとの交流計画を定め、今年6月に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウン（スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体）として国から登録が認められました。

11月19日にはこの交流事業の一環として、境町民体育館において、町内小学生150名を対象にオリンピック競技種目の一つであるトランポリン競技の実演・体験イベントを開催しました。講師の外村哲也選手は北京オリンピック4位（日本人最高位）を獲得されています。外村選手らオリンピック選手指導のもと、参加した児童は大迫力のトランポリン体験を楽しみました。

今後もこうした交流活動を活発に行い、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて町全体を盛り上げ、アルゼンチン選手団の事前キャンプ地の誘致を推進していきます。

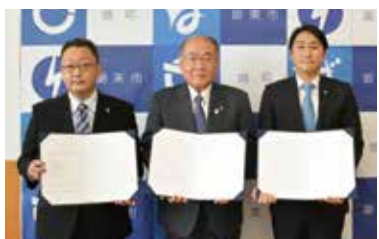
アルゼンチン選手団 誘致に向けた これまでの流れ

- 1 4月27日、ホストタウン推進協議会を発足（第1回会議の様子）



- 2 6月14日、アルゼンチンを相手国に境町がホストタウンとして登録決定！

- 3 9月30日、キャンプ地誘致に向け坂東市、潮来市と包括連携協定を締結



写真左から原潮来市長、吉原坂東市長、橋本町長



アルゼンチンに派遣された児童による活動報告



練習を重ねた歌を大使たちへ披露



児童と手をつなぎ入場するアラン・ペロー大使



長田小フェスティバルを見学したアラン・ペロー大使



児童たちと給食を楽しむアラン・ペロー大使



アルゼンチン代表のユニホームが贈呈されました



アラン・ペロー大使と長田小児童たちの記念撮影



北京五輪で4位の成績を残した外村選手



トランポリンを体験する児童



トランポリン体験の様子